

第16回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜フリートーク型＞ 対話録概要

と き	令和7年8月31日（日） 午後1時30分から午後3時30分まで
と ころ	園田東生涯学習プラザ 地域振興センター会議室
出 席 者	参加者 16人、市長ほか関係者 8人 計24人
トークテーマ	① 子ども施策・部活動を含む教育施策について ② 尼崎をもっと良くするために ③ フリートーク

【市長のあいさつ】

自分自身が市長になって16回目の車座集会である。平日の昼間では参加できない方にも参加してもらう狙いで、今年度は平日の夜や休日にも開催している。今回は高校生の参加もあり、活発な意見交換ができればと思っている。

【意見交換】

テーマ① 子ども施策・部活動を含む教育施策について

＜参加者＞市内の小中学校には全てエアコンが整備されていると聞いている。学校にエアコンがあるのであれば、暑さに慣れる体力づくりを兼ねて、子どもたちの長期休暇を短縮し、教育の時間を増やしてはどうか。また、昨今の暑さでプールの授業ができていないことについてはどうか。

＜市長＞直近では、夏休み期間を4日間延ばしたところであるが、休みが長すぎるのではという意見もある。教育の時間を増やすという点について、全体の授業時数は学習指導要領で決まっている。学力を向上させるためには放課後を含め、学習に向き合う時間を確保することは効果的であると考えているが、先生の負担が増える話であるため、調整しながら進めていかなければならない。プールについては、今年度から市内4校で民間委託を開始した。民間を活用しながら、学校水泳授業の効果的・効率的な授業の在り方の実証検証を行っている。

＜参加者＞高校情報技術部の活動で、1ヶ月に1回程度、小中学生向けのプログラミング講座やものづくり講座を開いており、尼崎市の子どもたちにプログラミングの面白さを広めたいと思い、継続して取り組んでいるが、広報不足や認知度の低さから、毎回参加者がとても少ない。そのため、市の広報誌やホームページ等で、自分たちの活動をぜひ紹介してもらいたい。普段、学校や商工会議所、地域振興センターで広報してもらっているが、参加者が少ない現状が続いている。自分たちができることは中学生などにプログラミングの面白さを伝えることで、その後の進路・職業選択や部活動などに活かして欲しいと思っており、開催案内について市に協力してほしい。

＜市長＞ロボット講座は、小学生・中学生に非常にニーズがあると思う。大人ではなく、高校生に教えてもらうという機会は小学生にとって魅力的であるため、一緒になって広報の方法を考えていきたい。また、市には「あまらぶチャレンジ事業ジュニアコース」があり、市内在住または在学の高校生グループがワークショップを通じて地域の課題や魅力を学び、その解決に向けた取組の企画を提案し、審査

が通ると補助金が交付される仕組みがある。学ぶ側が学びを応援する側も担ってくれていることは心強いと感じる。

〈参加者〉今の話に関連した確認と提案であるが、学校でSNSはしているのか。若い世代の方は学校や商工会議所のホームページを見ないと思う。学生個人で、個別に情報を発信してはどうか。製造業の方々から「日本人で製造業に興味を持つ方が非常に少なく人材不足である」という声を聞いたことがある。学生の段階からロボットなどに興味を持つ人が増えることは、将来の本市産業界に良い影響を与える可能性もあり、できるだけ情報を発信してほしい。テレビなど様々なものを活用してアピールしてはどうか。

〈市長〉SNSだけでなく、学校を通じて保護者に手紙を出すなど、ターゲットなどを考えながらPRの方法を考えていく方が良い。

〈参加者〉続いて、講座で使用するパソコンについては教育委員会事務局から借りているが、プログラミングの講座を古いパソコンで実施するには難しさがある。予算の都合上、パソコンが準備できず、個人のパソコンを使用して講座を実施している。

〈市長〉学校の備品であるパソコンを講座で使うことは、情報セキュリティ上の問題等があるが、学校ではない習いごとや部活動で使用するものに対してどのように予算を組むかは、考えていく必要がある。

〈参加者〉学校と地域が一体となり、子どもに関わることは大事であると思う。尼崎市で教育を受けた子どもたちの強みはどういった点にあるか教えて欲しい。

〈市長〉学校と地域・保護者間で関係が構築されると、様々な面で良い効果が出ると考えている。例えば、地域の公園で子どもによる悪戯があった際、学校と地域・保護者が顔の見える関係になっていることで、全て学校で対処するのではなく、地域で指導をしたりするなど、協力し合えるようになる。お互いが情報共有することで、コミュニケーションが成り立ち、不信感も負担感もなくなっていく。そのため、学校現場の先生には、地域と向き合い、コミュニケーションができる学校を作ってもらいたいと考えている。また、市内各地区には生涯学習プラザがあり、地域担当職員が学校運営にも関わっているところもあり、地域住民とコミュニケーションを取りながら地域の活動を支えている。こうしたことは大事であり、地域担当職員が間に入りながら学校と地域をつなぐ機能は尼崎の強みであり、地域ぐるみで育てられた子どもは立派な大人になっていくものと信じている。

〈参加者〉子ども食堂の出張プロジェクトで、学校の給食がない長期休暇中に昼ご飯を提供している。週に2回程度、コープ園田の場所を借り、フードバンクから提供してもらった調理が必要ない食品を子どもたちに提供し、授業のない日も昼食を食べられるようにしている。子どもたちは学校のスクールソーシャルワーカーにつないでもらって、子ども食堂に来ている。スクールソーシャルワーカーは中学校区に1人の配置と聞いているが、少ないのではないか。スクールソーシャルワーカーが常時学校に居てもらえれば相談しやすいのではないか。

〈市長〉全国と比べて、スクールソーシャルワーカーの配置が少ないことはなく、各中学校区に配置されており、比較的多い方ではある。ただし、1つの中学校区に複数の小学校があるため、十分とは言えない。各クラスに1～2人心配なご家庭の子どもがいるのが実情であり、令和8年度から児童相談所が開設されるため、子ども食堂やスクールソーシャルワーカー、いくしあ（子どもの育ち支援センター）が連携することで、支援が必要な子どもを見逃さない環境を構築していきたいと考えている。

〈参加者〉私がかかわっている子ども食堂では、スクールソーシャルワーカーと社会福祉協議会が関わり、学校も協力してくれている。このような関係が他の小学校にも広がればと思う。

テーマ② 尼崎をもっと良くするために

〈参加者〉尼崎市には、自然も多く、市の取組も面白いので、良いまちだと感じているが、市外の方にはまだ魅力が届いていないように感じる。市外への魅力発信について、生涯学習プラザで開催されるプラットフォームやみんなの尼崎大学など、面白い取組がたくさんあるため、SNSや様々なツールを使って、市外への情報発信に力を入れてもらいたい。

〈参加者〉アマニスム・みんなの尼崎大学・プラットフォームなどについては、市報などでも取り上げられていることがあるが、知ってもらう機会を増やすことが大事だと考える。駅の広場が最近整備されてきているため、例えばプラットフォームなどを駅前で開催することで市内外の人にも知ってもらえると思う。

〈園田地域振興センター所長〉過去に同じような提案をもらい、園田駅前の総合会館や看護学校など、色々な場所で開催しているが、多くの方に参加してもらうまでには至っていない。

〈参加者〉阪神尼崎駅の繁華街の一角で飲食店を経営している。三和商店街の周辺は市内でもホテルが一番多いこともあり、更なる活性化の余地はあると思っている。「このお店があるから尼崎へ行きたい」となるような魅力的な店舗が現状非常に少ない。各地区に魅力的な店舗はあるが、他県から来る人は少ないように感じる。尼崎は県外の人に良くないイメージを持たれていると聞くこともあるが、「居心地が良い」や「街並みに昭和の名残が残っていて良い」と言われることも多い。阪神周辺に飲食店やホテルをもう少し誘致するとともに、利便性を高めるためにも特に夜間の南北を結ぶ交通のアクセスを良くしてもらいたい。

〈参加者〉市内には、阪急・JR・阪神と3つの鉄道が走っており、縦横無尽にバスも通っている。こんなにも利便性の高い市はないのではないかなと思うが。

〈市長〉確かに利便性はあるが、南北の交通アクセスは十分でない。尼崎市内に13駅あり、地区それぞれに魅力がある。阪神地域に飲食店等を誘致する点に関しては、マーケティング等々、戦略的に実施することで活性化につながるかもしれない。

〈参加者〉ビジネスモデルとして、地域の一区画に共有のコンセプトを持った店舗が集まるなどすれば話題性が出る。

〈参加者〉阪神尼崎駅周辺には、尼崎城や総合文化センターなど文化発信の拠点となるものがある。

〈参加者〉まちの魅力向上について、市職員だけで考えるのではなく、市内の大学生と考え、コラボレーションしてはどうか。

〈参加者〉市民にとって、「尼崎市がどのようなまちでありたいか、どのような生活を送りたいと考えているか」を尼崎の魅力としてとらえてPRしてもらいたい。尼崎市が魅力向上を進めるにあたっては市民が抱えている問題や市民意識に寄り添い、市民が日常生活の中でどういう生活を送るのが一番いいかを念頭に置いたまちづくりを進めて欲しい。

〈市長〉非常に本質的な意見である。先ほど市の概要を説明する際、人口動態や財政運営、子ども子育てアクションプランなどの話を出した。若い世代が転入し、働き手が増え、消費が活性化し、納税され、市の財政が健全化し、様々な事業に投資がなされることは、経済を中心とした循環であり、こうした循環を活性化させたいという考えのもと政策に取り組んでいる。これらの政策を続けた先に、継続的な開発、継続的な労働がもたらされると考えている。意見のあった市民の生活の質は大事な観点であるため、心に留めながら政策を進めていきたい。

テーマ③ フリートーク

〈参加者〉ごみ収集の仕事をしている。尼崎のごみは燃やされたあと焼却量の1/5程度（重量比）が灰になるが、尼崎では埋めるところがないため、神戸（神戸沖埋立処分場）に運んでいる。世界の海には約1億5000万トンのごみが浮いている現状にある。先日のクリーンキャンペーンにも参加したが、煙草の吸い殻が多くあった。尼崎市の子どもたちのためにも、少しでもクリーンでごみのないまちにしたい。

〈参加者〉今の子どもたちが知らない本当の自然を感じられる自然公園を作ってほしい。

〈参加者〉農業公園の広報をしっかりと欲したい。また、アクセスしやすい場所にある訳ではないため、子どもたちが安全に行くことができ、校区以外の子どもたちにも自然を共有できるようなものにして、公園の手入れ等もボランティアではなく持続可能な仕組みづくりをお願いしたい。

〈市長〉今年度農業公園の再整備を予定しており、自然と文化の森構想も活かしながら農業公園に加えて、環境公園のような形にできないかと話を進めている。農業公園の中に、花木や農業だけではなく、生き物が生存できる空間を作るべきと考え、来年夏頃の供用開始に向けて準備を進めている。猪名川についても、国土交通省と相談をしながら、ヒメボタルなどの生き物が過ごしやすいエリアを作れるような構想を進めている。

〈参加者〉南北格差について、阪神地域周辺の商店街はシャッターが閉まっているところが多く、活気がない。市と市民、学識経験や各業界団体などが集まる会議の場を持ち、まずはフリートークで、阪神地域のこと、まちの生き生きとした動きを生み出すための方策を考えてほしい。

〈市長〉杭瀬では、活性化に向けて、杭瀬アクションクラブを開催し、地元の会社も入って活動している。南北格差は指摘の通りであり、将来を見越してどういう風に地域を開発するかという視点を持ってまちづくりを進めていきたい。

〈参加者〉自分は市内で地域貢献活動をしている。貢献しているかどうかといった成果は見えにくいですが生きがいにつながっている。

〈市長〉こうした人がいて尼崎が支えられていると感じている。また、高齢化が進む中で、生きがいは健康につながると考えており、何を生きがいとするか、シニア世代が働く環境とはどうあるべきかに問題意識を持っている。若い世代と同じように働くのではなく、ボランティアでもない領域で働く分野を開発していきたい。人生の充実度に関連する話であると考えている。

【おわりに】

〈市長〉たくさん意見をもらい、非常に有益であった。もらった意見は今後の市政運営に活かしていきたいと考えている。ありがとうございました。

以 上